

## ありがとう、じいちゃん

鹿児島県 日置市立妙円寺小学校二年 下川 陽翔

「じいちゃん、ひいだよ。じいちゃん、ひいがきたよ。」

ぼくは、じいちゃんのみみもとでさげびました。すると、じいちゃんめがすこしひらきました。

「じいちゃん、じいちゃん、いつもおこめありがとう。」

ぼくは、またおおきなこえではなしかけました。すると、じいちゃんがくちをばくばくうごかしました。なにか、ぼくにいつているようでした。びょうしつへおみまいにいつてからよつかにじいちゃんはてんごくへいきました。

ぼくは、じいちゃんをだすきでした。じいちゃんは、こころやさしくてつよいひとでした。いまのぼくたちのじいはいは、へいわです。それは、ぼくのじいちゃんがせんそうでがんばってたかってくれたからです。ぼくはせんそうをしりません。だけど、せんそうでたくさんのひとがなくなることは、とてもかなしことだとかんじました。そんななか、じいちゃんはいいきのこりました。ぼくがしつているじいちゃんは、いつもげんきでした。それは、きつとせんそうでなくなつたひとたちのぶんもいっしょうけんめいいきでいたからだとおもいます。

また、じいちゃんは、たんぼでおこめをつくっていました。そのおこめはあまくておいしくてやさしいあじがしました。

「じいちゃん、どうしてじいちゃんのおこめはこんなにおいしいの。」と、ぼくがきくと、

「それはね、ひいくんがね、おいしそうにたべているところをみた

いから、こころをこめてつくっているんだよ。」

とおしえてくれました。また、

「そんなにおいしいかね、じいちゃんのおこめは。じいちゃんもううれしいがよ。」

とにこわらっていました。

じいちゃんのおこめがのこりすくなくなってきました。なくなつちゃうのはかなしいけれど、たべるとぼくをしあわせにしてくれます。やつぱり、じいちゃんのおこめはせかい一です。

おそうしきには、たくさんのひとがあつまっていました。ぼくはなくなつたじいちゃんをみて、かなしかつたです。だけど、わかいたきのじいちゃんのしゃんがかざつてあつて、ぼくのじいちゃんはやつぱりかつこいとおもいました。かそうばでおこつとなつたじいちゃん。じいちゃんのほねをはこのなかへいれるとき、ぼくは、

「じいちゃん、てんごくでもげんきでね。」と、こころのなかでねがいました。

ぼくはいま、いきています。じいちゃんがせんそうでもまもつてくれたこのくにで、じいちゃんをこころをこめてつくってくれたおこめをたべて、じいちゃんのまごであるおかあさんと。これからも、やさしくてつよかつたじいちゃんのことばをせつたいにわすれないよ。ぼくもじいちゃんみたいになつよいひとになるからね。

ありがとう、じいちゃん。